⑴　ＲＥＣＯＮＳＴ

ＲＥＣＯＮＳＴは、適応量子化器から出力されたＩを入力して次に示す表によりＤＱＳ及びＤＱＬＮを出力し、ＤＱＳをＡＮＴＩＬＯＧに、ＤＱＬＮをＡＤＤＡにそれぞれ入力する。

Ｉ（注）				ＤＱＳ	ＤＱＬＮ
V_0	V_1	V_2	V_3		
0	1	1	1	0	425
0	1	1	0	0	373
0	1	0	1	0	323
0	1	0	0	0	273
0	0	1	1	0	213
0	0	1	0	0	135
0	0	0	1	0	4
0	0	0	0	0	2048
1	1	1	1	1	2048
1	1	1	0	1	4
1	1	0	1	1	135
1	1	0	0	1	213
1	0	1	1	1	273
1	0	1	0	1	323
1	0	0	1	1	373
1	0	0	0	1	425

注　５の⑶の注を参照

⑵　ＡＤＤＡ

ＡＤＤＡは、ＲＥＣＯＮＳＴから出力されたＤＱＬＮ及び量子化スケールファクタ適応器から出力されたＹを入力して次に示す計算によりＤＱＬを出力し、これをＡＮＴＩＬＯＧに入力する。

ＤＱＬ＝（ＤＱＬＮ＋（Ｙ＞＞２））&4095

⑶　ＡＮＴＩＬＯＧ

ＡＮＴＩＬＯＧは、ＡＤＤＡから出力されたＤＱＬ及びＲＥＣＯＮＳＴから出力されたＤＱＳを入力して次に示す計算によりＤＱを出力し、これを再生信号計算器、適応予測器及びトーン・変化点検出器に入力する。

ＤＳ＝ＤＱＬ＞＞11

ＤＥＸ＝（ＤＱＬ＞＞７）&15

ＤＭＮ＝ＤＱＬ&127

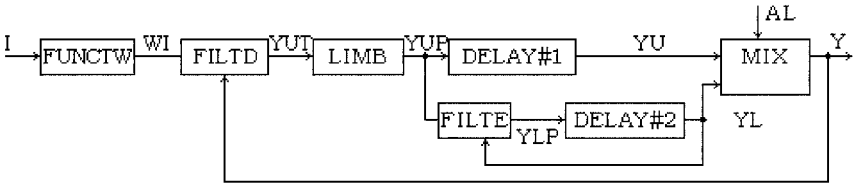
ＤＱＴ＝（１＜＜７）＋ＤＭＮ

$$\mathrm{DQMAG}=\begin{cases}(\mathrm{DQT}<<7)>>(14-\mathrm{DEX}) & :\mathrm{DS}=0\text{のとき}\\ 0 & :\mathrm{DS}=1\text{のとき}\end{cases}$$

ＤＱ＝（ＤＱＳ＜＜14）＋ＤＱＭＡＧ

7　量子化スケールファクタ適応器

量子化スケールファクタ適応器は、次の図に示す回路から構成され、適応量子化器から出力されたＩ及び適応速度制御器から出力されたＡＬを入力して次に示す計算によりＹ及びＹＬを出力し、Ｙを適応速度制御器、適応量子化器及び逆適応量子化器に、ＹＬをトーン・変化点検出器にそれぞれ入力する。



⑴　ＦＵＮＣＴＷ

ＦＵＮＣＴＷは、適応量子化器から出力されたＩを入力して次に示す計算によりＷＩを出力し、これをＦＩＬＴＤに入力する。

ＩＳ＝Ｉ＞＞３

$$\mathrm{IM}=\begin{cases}\mathrm{I}\,\&\,7 & :\mathrm{IS}=0\text{のとき}\\ (15-\mathrm{I})\,\&\,7 & :\mathrm{IS}=1\text{のとき}\end{cases}$$

$$\mathrm{WI}=\begin{cases}1122 & :\mathrm{IM}=7\text{のとき}\\ 355 & :\mathrm{IM}=6\text{のとき}\\ 198 & :\mathrm{IM}=5\text{のとき}\\ 112 & :\mathrm{IM}=4\text{のとき}\\ 64 & :\mathrm{IM}=3\text{のとき}\\ 41 & :\mathrm{IM}=2\text{のとき}\\ 18 & :\mathrm{IM}=1\text{のとき}\\ 4084 & :\mathrm{IM}=0\text{のとき}\end{cases}$$

⑵　ＦＩＬＴＤ

ＦＩＬＴＤは、ＦＵＮＣＴＷから出力されたＷＩ及びＭＩＸから出力されたＹを入力して次に示す計算によりＹＵＴを出力し、これをＬＩＭＢに入力する。

ＤＩＦ＝((ＷＩ＜＜５）＋131072－Ｙ）&131071

ＤＩＦＳ＝ＤＩＦ＞＞16

$$\mathrm{DIFSX}=\begin{cases}\mathrm{DIF}>>5 & :\mathrm{DIFS}=0\text{のとき}\\ (\mathrm{DIF}>>5)+4096 & :\mathrm{DIFS}=1\text{のとき}\end{cases}$$

ＹＵＴ＝（Ｙ＋ＤＩＦＳＸ）&8191

⑶　ＬＩＭＢ

ＬＩＭＢは、ＦＩＬＴＤから出力されたＹＵＴを入力して次に示す計算によりＹＵＰを出力し、これをＤＥＬＡＹ＃１に入力する。

ＧＥＵＬ＝((ＹＵＴ＋11264）&16383）＞＞13

ＧＥＬＬ＝((ＹＵＴ＋15840）&16383）＞＞13

$$\mathrm{YUP}=\begin{cases}544 & :\mathrm{GELL}=1\text{のとき}\\ 5120 & :\mathrm{GEUL}=0\text{のとき}\\ \mathrm{YUT} & :\text{その他のとき}\end{cases}$$

⑷　ＦＩＬＴＥ

ＦＩＬＴＥは、ＬＩＭＢから出力されたＹＵＰ及びＤＥＬＡＹ＃２から出力されたＹＬを入力して次に示す計算によりＹＬＰを出力し、これをＤＥＬＡＹ＃２に入力する。

ＤＩＦ＝（ＹＵＰ＋((1048576－ＹＬ）＞＞６））&16383

ＤＩＦＳ＝ＤＩＦ＞＞13

$$\mathrm{DIFSX}=\begin{cases}\mathrm{DIF} & :\mathrm{DIFS}=0\text{のとき}\\ \mathrm{DIF}+507904 & :\mathrm{DIFS}=1\text{のとき}\end{cases}$$

ＹＬＰ＝（ＹＬ＋ＤＩＦＳＸ）&524287

⑸　ＤＥＬＡＹ＃１

ＤＥＬＡＹ＃１は、入力した信号を一旦記憶し、入力時から125sec後に、Ｒ＝０の時はこの記憶した信号を、Ｒ＝１の時は３の表に示すリセット信号により設定される信号を出力する。